

2010年

6月5日(土曜日) まちの存立に欠かせない「医職衆」の「医」 - 北丹医師会総会に臨席して -

本日、北丹医師会春季総会があり、臨席をさせていただきました。現在、厳しい地域の景況の中で行政の総力をあげてまちの維持・発展に尽力していますが、まちづくりの展望を描くことができるのも、まちの存立に欠かせない「医職衆」のライフラインがしっかりしているからである。人の生活に欠かせないのは「衣食住」であるが、同じ「イシヨクジュウ(シュウ)」でも、まちの成り立ちになくてはならないのが「医職衆」である。

「職」がなければ人が生活を継続していくことができないのは自明であるし、「衆」として多くの人たちがまちを形成し生活を営むことができるためには、福祉や教育、警察などの様々な公共的機能が配置されていなければなりません。まち存立の大きなカギとなるのが、何といても、医療の機能、「医」であります。「医」は、人の生活の基礎となる健康や人の命そのものを支えるためになくてはならぬものであり、安心・安全な暮らしの中心となる大きな一つの柱である。

本市には、都市部と比べると、医療機関や医師の数は比較的少ないですが、少ない中にも、医師の皆さん、看護師の皆さんはじめ、各師・士の皆さん、関係者の皆さんが、患者さん、住民の皆さんを中心に据えて、日夜、献身的に質の高い医療に尽くしていただいている。この間、平成16年の臨床研修制度の改変後に当地はじめ全国各地で医師不足・医師確保の課題が出ているが、本日、北丹医師会の総会に臨ませていただき、人とまちにとって「医」の重要性を改めてかみしめながら、本市の医療関係者の皆さんを心から誇りに思い、改めて感謝を深くする次第です。